

TOPICS

★生涯学習県民大学講座の開講

平成11年度生涯学習県民大学の「知って得するくらしの科学」講座を、今年も7月21日から8月10日まで3週間にわたり、当センターで開講しました。今年は、21名が受講しました。

今回の講座では、外部講師8名による「知って得する商品知識」、「消費者のこごと」、「炭で地球を救う」、「さつまいもを科学する」、「ものづくりと環境」、「フラワーアレンジメント」、「溶接今昔」、「アナウンサーから見たテレビの裏表」、所内講師6名による「コンクリートあれこれ」、「かみのかたち」、「炭のつくり方とその特徴」、「シロアリのはなし」、「パソコンよ

もやまばなし」、「特定保健用食品あれこれ」の計14科目について講義や実技が行われました。



★研究成果発表会の開催

平成11年度の研究成果発表会を「産学官連携による活力産業の創出をめざして」をテーマに、7月7日に当センターで開催し、県内企業の方々をはじめ各方面から125名の参加をいただきました。

特別講演として、(株)九州タブチ代表取締役社長の桑野正敬氏をお招きし、「下請加工型企業から研究開発型企業への変革をめざして」と題して貴重な体験談を交えた講演をしていただきました。

研究発表は、口頭発表5件、パネル発表14件の発表を行いました。

また、発表会はインターネットにより生中継し、

当センターのホームページからオンデマンドで視聴することができます。



★木材保存技術講習会の開催

7月1日名瀬市の大島支庁4階会議室において、京都大学木質科学研究所今村祐嗣教授を講師に迎えて、奄美に多く生育するリュウキュウマツの利用を図る上で一番の問題となる肖変菌予防と木造建築物の天敵イエシロアリ対策についての講習会

が開催されました。

参加者は、建築士や木材加工業者、素材生産業者さらに市町村、県の行政関係者35名で積極的な意見交換がなされました。